

第1号議案

2020年度 活動報告

2020年の世相を表す漢字は「密」でした。3度目の新型コロナウイルス感染の波を経験し、その波も収束せず下げ止まった状態で緊急事態宣言も解除されました。私達は新型コロナウイルスを恐れることなく共存して生活していくことが必要と感じています。

旭区で推進している第4期旭区地域福祉保健計画（計画期間：令和3年度から令和7年度）「きらっとあさひプラン」は、旭区で生活・活動している「すべての人」が健康でしあわせな生活を送れるまちを目指し、行政はもとより、地域で住みよいまちづくりに取り組まれている関係諸団体と協働し、地域住民が主体となって、共に力を合わせて取り組む計画です。

若葉台地区社協では、「密」を避けながら、若葉台連合自治会、若葉台住宅管理組合協議会、若葉台まちづくりセンターをはじめ若葉台地域ケアプラザ、認定NPO法人若葉台、NPO若葉台スポーツ・文化クラブ、旭区役所、横浜市社会福祉協議会、旭区社会福祉協議会などの関係組織の支援をいただきながら、「見守り」、「参加できる機会」、「居場所づくり」、「啓発」をテーマに『困った時に声をあげられる雰囲気のあるまちづくり』を目指して「挨拶運動」と移動サロン「ほっこり」をはじめ、地域福祉保健部会、子育て部会、障がい児・者部会を開催して「福祉のまちづくり」に取り組んでいます。

若葉台の少子高齢化は一層進み、高齢化率は2020年9月末に51.7%となりました。高齢化率も然りながら、前期高齢者（25.7%）より後期高齢者（26.0%）が増えたのが特徴的です。地域福祉活動には高齢者への対応はもちろん、若い世代が安心して子どもを育てられる環境を整える子育て支援、さらには障がい児・者の居場所づくりなどの課題に着実に取り組むことが益々求められています。

以下、2020年度の活動報告をいたします。

1. みんなで取り組む社会福祉活動の推進

(1) 高齢者福祉活動

① 高齢者等地域見守り事業代表者会議および情報交換会の開催

高齢者等の要援護者への見守りは、民生委員・児童委員、友愛活動部会等と連携しながら実施している自治会が多く、地域全体で「隣近所が知りあい、助けあう」関係を深めることが最も重要と再確認いたしました。

年度末の3月に実施していた連合自治会（担当、福祉地域部会）との「若葉台高齢者等地域見守り活動報告会」は、新型コロナウイルス感染拡大で3年続けて中止を余儀なくされたのは非常に残念です。

② 老人クラブ若葉台支部（かがやきクラブ）への支援

かがやきクラブの友愛活動部会は各自治会の福祉部、民生委員・児童委員と協働で「高齢者見守り活動」を実施しています。また「子ども達の見守り」や「赤い羽根街頭募金活動」「公園等の清掃活動」など活発な地域への貢献活動や各種の文化とスポーツ活動を展開しており、こうした諸活動に地区社協としても支援してきました。またかがやきクラブの会長会議に参加し情報提供・情報交換に努めてまいりました。

支援の一環として区老連若葉台支部及び若葉台地区友愛活動部会へ助成金を支援しました。（別表1参照）

③ 第25回若葉台高齢者交流会の開催

新型コロナウイルス感染拡大で中止しました。

(2) 子育て支援活動

① 子育て部会の活性化

若葉台子育てささえあい連絡会の解散（2019年度末）により、若葉台における子育て支援活動の中心は地区社協が担うことになりました。地域内の子育て関係団体、グループのそれぞれの事業や活動が効果的に行えるようにする為に、令和2年9月から毎月第4木曜日に、合計8回、部会員にお集まりいただき、若葉台の子育て環境の現状と課題について情報共有しました。

② 一人悩んでいる子育て世帯の支援

若葉台に身内・知り合いのいない、一人で子育てに悩んでいらっしゃる子育て世帯に対して、「そらまめ」、「若葉台子育て母の会」など既存の子育て組織への参加をためらっている世帯の背中を押す一助（きっかけづくり）となるように、スタンプラリーを実施しました。若葉台全域と上川井から総勢20家族以上が参加されました。参加した施設は、そらまめが一番多く、次いで若葉台地区センターでした。なお、実施に際しては市社協の地区社協活動助成金（身近な地域の支え合い活動）を活用しました。

③ その他の活動への支援・協力

◆〔プレイパーク〕毎月の開催を支援・協力。

◆〔サロンみんなあつまれ！！〕開催を支援・協力。

(3) 障がい児・者支援活動

① 障がい児・者の居場所づくりの取り組み

今年度は新型コロナウイルスの出現で社会が一変し、新しい生活様式を踏まえた活動を鑑み、無理のない活動スタイルを模索する機会であった。工夫を凝らした活動を実践するには何をすべきか？ 障がい者部会で話し合いをしました。支援をしてあげるのではなく、寄り添って一緒に考える姿勢で、どなたでも受け入れられる居場所があるという事が大事ではないだろうか？

その結果、あまり欲張らず、日常生活の復帰をめざした中途障がいになられた当事者の方々と意見交換をして、日々の生活の中で不便な事などお話してもらい、

車いす移動での道路状況等を教えてもらいました。障がい者部会での取り組みもすぐ前進して当事者の意見要望に応じていける様努力し、今後の方向性も当事者を中心に検討しました。

② 障がい児・者理解「ふれあいフェスティバル」開催

新型コロナウイルス感染拡大で実施できませんでした。

(4) 地域交流活動

① 単独での開催を断念し、若葉台で実施するイベントに参加する形式で実施する予定だった福祉体験「孫子老の日」は、新型コロナウイルス感染拡大により、予定していた全てのイベントが中止されたことにより、実施することはできませんでした。

② 第31回若葉台地区社会福祉協議会感謝デーの開催

11月3日（火・祝）に、わかばの広場<石の広場>で予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大（第3波）と飲食を伴うために中止としました。

③ 第18回多世代交流「みんなあつまれ」開催

2021年5月5日（水・祝）遊水地グラウンド（若葉台多目的広場）で子どもから高齢者までの多世代の方々が参加し、むかし遊びだけでなく今の子ども達の間で人気の遊びも取り入れて、子どもも大人も楽しめるイベントを計画しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止としました。

④ 「カフェわかば」ボランティア

「カフェわかば」は、市内で唯一の横浜市立若葉台特別支援学校（横浜わかば学園）の生徒・職員により運営されています。地区社協は、民生委員・児童委員ならびに地域ボランティアの協力を得て、カフェ運営を見守るボランティア活動を2018年10月に開始し3年目を迎えました。協力して頂けるボランティアの数も広報活動の効果も奏して30名を超えました。

新型コロナウイルス感染拡大で、8月から生徒だけで運営していたカフェに、10月からはコロナ感染対策を実施した上でボランティアも1名体制ではありませんが入れるようになりました。まだ室内での飲食はできずパンの販売ですが、外にパラソルとイスが設置されて、コロナ禍での新しい形のカフェとなっています。ボランティアの方々にも安堵の笑みが見られるようになりました。

また、コロナ禍ではありますが、わかば学園の先生とボランティアの皆さまとによる情報交換会を開催して、生徒の教育の場である「カフェわかば」をより良くするために、広報・メニューなど多くの意見交換することができました。

2020年4月から予定していたボランティアだけの月曜日営業は、新型コロナウイルス感染拡大で遠のきましたが、「カフェわかば」の地域での憩いの場・交流の場としての重要性は、コロナ禍で益々増していると感じています。実現に向けて活動を推進してまいります。

⑤ 学校連携

横浜創英大学こども教育学部の平野ゼミとの連携は、新型コロナウイルス禍で

も細々と続けました。昨年度と同じ地域の活動プレイパークと若葉台地区民生児童委員協議会の放課後支援事業たんぽぽに、状況が許す時は来ていただくよう準備していましたが、今年度は2回だけでした。学生の皆さんにとっては数少ない実習の1つになったようです。昨年の実績を受けて拡大していこうとしていた地域にとっては残念でした。

2. 福祉活動を支える活動

(1) きらっとあさひプランについて

① 第3期地域福祉保健計画（平成28年～32年）

若葉台および若葉台を取り巻く地域環境の変化に対応する方策、特に認知症対策・孤立防止の仕組みを強力に推進する地区別計画「向こう三軒両隣につながるコミュニケーション → 地域での孤立化を防止する」活動では、地区社協理事を中心に区役所・区社協・若葉台地域ケアプラザの地域支援チームの協力を得ながら、地域福祉保健部会を継続して更なる検討をしてきました。『孤立≒困った時に声をあげられない!』は十分に共有することができました。前年度より始まった「あいさつ運動」と「移動サロン」は、地域の皆様にも徐々に浸透しつつあります。



イ) 「あいさつ運動」は、挨拶が当たり前のできる環境（イメージ）づくりのために、若葉台のあちらこちらに立てた独自デザインの「のぼり旗」は、一年間風雨にさらされて劣化してきたので、雨風に耐性のある明るい色調の「のぼり旗」に更新しました。

ロ) 移動サロン「ほっこり」の開催も、2019年11月から数えて15回開催してきました。新型コロナウイルス禍にも関わらず毎回50名前後の参加があり、乳幼児連れの母親から100歳超えの方々まで多世代に渡って参加いただいています。のぼり旗の設置・広報活動の効果も相まって、地域における憩いの場として定着してきました。また、初めて二丁目南自治会の協力を得て丸太広場で出張サロン「ほっこり」を開催しました。(10月)
また、2020年12月からは、横浜調剤薬局の協力を得てお薬相談会も併設して開催しています。地域の憩いの場づくり・仲間づくりの輪が徐々に広がってきています。



② 第4期地域福祉保健計画（令和3年～7年）

旭区で生活・活動している「すべての人」が健康でしあわせな生活を送れるまちを目指し、行政はもとより、地域で住みよいまちづくりに取り組まれている関係諸団体と協働し、地域住民が主体となって、共に力を合わせて取り組む計画です。若葉台地区社協では、「見守り」、「参加できる機会」、「居場所づくり」、「啓発」をテーマに地域福祉保健計画を推進しています。

私たちが描く地区の未来図

『困ったときに、声をあげられる雰囲気のあるまちづくり』

地域には価値観、考え方の違う人など、いろいろな人がいる。そして、いろいろな
かかわり方がある。困ったときに声を上げ、それを受け止めることができる地域。

(2) ボランティア団体への支援

「わかばネット」をはじめ地区社協参加団体に支援を継続しました。

(3) 助成

2020年度もボランティア団体、当事者団体等へ助成いたしました。(別表
1参照)

(4) 赤い羽根街頭募金協力

10月1日(木)～3日(土)の10時～18時に、かがやきクラブ、福祉活
動を行っている諸団体、若葉台地区民生委員児童委員協議会、ジュニアボランテ
ィアの方々にご協力をいただき、赤い羽根街頭募金をイトーヨーカードー前で実施
しました。コロナウイルス禍の中で感染防止対策に万全を期して声掛けなし、C
Dでの呼びかけでの募金活動となりました。

街頭募金にご協力くださいました多くの皆さま、誠にありがとうございました。
募金額は次表のようになりました。

月日(曜日)	金額(円)
10月1日(木)	78,100
10月2日(金)	83,289
10月3日(土)	59,081
合計	220,470



赤い羽根該当募金額

なお、集まった募金の約7割は、募金をいただいた地域で使われていますが、
残りの約3割は、皆さまの住んでいる市区町村を越えた広域的な課題を解決する
ための活動に、都道府県の範囲で使われています。

(5) 表彰

①令和2年度旭区社会福祉協議会社会福祉功労表彰として、以下の方々が表彰さ
れました。

● 地域福祉功労：三村治子様

若葉台乳幼児学級を主宰し、子育て中の母親の学びの場・交流の場を提供
したのをはじめ、初代旭区主任児童委員連絡会代表として、今日に至る活動
の礎を築きました。また、子育てささえあい連絡会会長として、地域の各組
織と連携し、子育て支援の活動を幅広く行ってこられました。

● 地域福祉功労：瀬戸久美子様

保健指導員、はまっこスクールアシスタントパートナー、主任児童委員な
どを30年以上に亘って歴任してこられ、現在は、若葉台中学校地域コーデ
ィネーター、子育て中の親子を中心とした多世代交流の場である「サロンみ

んなあつまれ！！」を中心となって支え、今は代表として活動され、保護者にも地域住民の方々にも信頼されて活動を継続されています。2020年度からは地区社協役員としても活動されています。

- 特別功労：小林智子様

ハンディキャップのある子ども・家族・ボランティア等が一体となって交流活動に取り組んでいる「テクテクの会」の当事者の親としても中心になって活動されており、10年前からは地区社協の理事としても地区社協の障がい者理解活動にも積極的に活動されています。2020年度からは地区社協の障がい児者部会副部長としても活動されています。

②令和2年度横浜市社会福祉協議会社会福祉功労顕彰受賞として、以下の団体が表彰されました。

- サロンみんなあつまれ！！

子育て中の親子を対象に、わらべ歌、手遊び、絵本の読み聞かせ、講師による食育、親子リトミック等、子育て支援をする多世代交流の場（サロン）を提供しています。乳幼児の遊びを見守りながら、子育て中の親同士が、時には地域のボランティアスタッフを交えて、子育ての悩みを話し合うことを通じて、子育てに伴う不安や孤立を防止して、若葉台における健全な子育て支援に大きく貢献をされています。

- テクテクの会

ハンディキャップのある子どもとその家族、そしてそれを支えるボランティアが構成員であるのがこの会の大きな特徴です。年に1度すてきな機関誌を発行し、ゲームや料理、農作業やバスハイク、きりたんぼの会と様々な企画で楽しく交流活動を繰り広げ、若葉台における障がい児・者の理解に大きく貢献されています。

3. 広報活動

(1) 広報紙「社協だより」の発行（年6回の発行）

社協の活動報告とボランティア団体の紹介・活動報告の掲載はもちろん、地域福祉の充実に向け地区社協のみならず地域でいろいろ活動されている様子や地区社協の目指すところなど様々な情報を提供しています。

特に、きらっとあさひ福祉プラン（旭区地域福祉保健計画）は、第3期（平成28年～32年）最終年度であり、第4期（令和3年～7年）計画づくりの節目の年でもあり、紙面を大きく割いて周知に努めました。

また、いつも地区社協の活動にご協力いただいている、お年寄りと障害者だけの施設ではない、若葉台地域ケアプラザのさまざまな取り組み内容を、地域の皆さまに知っていただき、身近に感じていただければとの思いで「若葉台地域ケアプラザってなーに？」の連載を継続しました。

さらに、2019年度に開始した行政委嘱の活動を紹介する記事の掲載を継続し、今年度は、保健活動推進員、スポーツ推進委員の方々にご協力を頂きました。

(2) 地区社協をもっと知って頂くために！

地区社協って何をしているの？、そう思われる方が大勢いらっしゃるのですが、わかりました。そこで、2019年6月から自治会等関係団体に出向いて、地区社協の役割と活動内容を説明させていただき活動を実施しています。2020年度は、きらっとあさひプランの説明を中心に、むつき会、中央自治会で開催しました。きらっとあさひプランを知っている人が増えることを願っています。

(3) 他媒体による情報提供

「連合自治会ブログ」、「みんなの若葉台」へ記事を掲載していただきました。

(ふれあいフェスティバル、みんなあつまれ、移動サロン)

4. 研修・講演会の参加・実施

(1) 役員・理事研修

地区社協の活動や地域福祉を推進し、地区社協の役割などについて共通理解を深めるために、旭区役所・旭区社協主催による「新あさひみらい塾」に理事2名に参加していただきました。

今年度のテーマ「いつまでも住み続けたい地域づくりを目指して～災害と日ごろの見守り活動について～」で、神奈川区の事例紹介「羽沢地区の取り組み紹介」と「被災地での見守り活動」について学んで来ました。残念ながらコロナ禍で閉校式と交流会は中止となりました。

(2) 講演会

なし

(3) 地区社協分科会

地区社協に求められている「困りごとに寄り添い、ネットワークを活かして解決していく」という役割について、以下の情報交換をしました。

- ① 第一回(7/29)は、「新型コロナウイルスの影響後における地域福祉活動」、「社協のあり様と地域共生社会」、「今後の地域活動に求められるもの」
- ② 第二回(10/29)は、「見守り・支え合い活動における地区社協の役割」、「地区社協における見守りの仕組みづくりの導入に向けて」
- ③ 第三回(3/25)は、「新型コロナウイルスから考える思いやり、つながり、支え合い」

(4) 地区社協分科会ワーキンググループ (全9回)

「一人ひとりの困りごとを解決できる地域づくり」を目指し、各地区社協ではサロンや各種イベント等の様々な活動が行われています。課題を抱える世帯(個人)を早期に発見し、住民自らの力で課題解決し、必要な支援につなげていくために、地区社協が果たすべき役割や具体的な進め方について検討してきました。そこで、旭区社会福祉協議会及び19地区社会福祉協議会では、地域社会からの孤立を防ぎ、様々な困り事を早期に発見し、問題解決につなげていくための新しい包括的な見守りの仕組みに取り組むことになりました。

5. 地区社協活動

(1) 理事会・役員会

定例の役員会（第1水曜日）、理事会（第3木曜日）を開催して、地区社協活動の推進と関係諸団体との情報共有に努めました。

(2) 専門部会

● 地域福祉保健部会

毎月第2木曜日に、きらっとあさひプラン推進のために全理事の方にお集まりいただき、地域福祉の課題解決について議論をしました。

● 子育て部会

年度後半から毎月第4木曜に、部会員の方にお集まりいただき、若葉台の子育の環境の現状と課題について情報共有しました。

● 障がい者部会

年度後半から毎月最終日曜日に、部会員の方にお集まりいただき、障がい児・者の居場所づくりなどの課題について情報共有しました

(3) 賛助金募集活動

2021年1月～3月にかけて募集活動をさせていただきました賛助金は、地区社協活動のための大切な資金となるものです。今年度も個人・団体・法人から以下の協力をしていただきました。皆様から頂いた賛助金は地区社協の大きな財源となっています。皆様のご協力に心より感謝いたします。（3月31日現在）

個人	:	1, 007, 333円	
団体・法人	:	122, 540円	(25団体・法人)
合計	:	1, 129, 873円	

6. 委員会等への参加

地域の福祉団体等と連携し福祉の充実を図るため、また、住みよい街づくりをめざして委員会等に参加しました。委員会等で積極的に情報交換を行い、得られた情報は役員会・理事会において情報共有を行いました。

※新型コロナによる書面審議と中止回数を含む

- (1) 若葉台連合自治会理事会（6回、: 会長）
- (2) 若葉台地域ケアプラザ運営協議会（3回、会長）
- (3) 若葉台青少年健全育成委員会（2回、会長）
- (4) 若葉台プレイパーク活動運営委員会（1回、会長）
- (5) 若葉台地区センター委員会（3回、副会長）
- (6) わかば学園コミュニティハウス運営委員会（3回、会長）
- (7) わかば学園コミュニティハウス利用者会議（2回、会長）
- (8) 中央学童運営委員会（2回、副会長、理事）
- (9) 若葉台未来づくり協議会（5回、会長、事務局長）

(10) 若葉台みらいづくりプラン推進会議（3回、会長）

[目的] 横浜若葉台みらいづくりプランの目標実現及び各種取組みの推進にあたり、プラン策定に携わった横浜マスタープラン策定委員会の構成員を中心に、継続的且つプランの主旨に適った適切な進捗管理を行うことを目的として、推進会議を設置する。

(11) 地域作業所若葉台ぶんげいざ運営委員会（3回、会長）

(12) かがやきクラブ若葉台第一・第二支部長会（12回、副会長）

(13) こどもみらいづくりプロジェクト（1回、会長）

(14) 若葉台特別支援学校運営協議会（3回、会長）

[目的] 学校と保護者、地域、福祉、医療及び関連機関等との相互理解や信頼関係に基づき、児童・生徒の健全な育成や社会的自立及び福祉の街づくりへの貢献に向けて、よりよい学校づくりを目的に活動とする。

(15) ひまわり活動推進会議（3回、会長）

[目的] 地域ニーズや課題を解決するための検討、介護予防・生活支援サービス事業の拡充、福祉のまちづくりの推進

(16) 若葉台小学校キッズクラブ評議会（2回、役員）

7. その他

(1) 倉庫とテントの購入

長年の使用で傷みが激しく汚れており、その上組み立てにも苦勞するテントに代わって、軽くて簡単に組み立てできるテントを購入（10月）しました。さらに購入するテントと連合会館事務室に置かしていただいている備品を収納できるように、一回り大きいサイズの倉庫を購入（11月）しました。